

最新旧型機クロツクアップ・サイリツクス

V e r 1 5

三
二
一
四
一

作・演出／川原 武浩

CAST

- 一／ぽち（非・売れ線系ビーナス）
- 二／ケニー（非・売れ線系ビーナス）
- 三／長岡暢陵
- 四／上瀧昭吾

STAFF

- 照明 出田浩志
- 音響 青井美貴
- 装置 中島信和／安部将吾
- 宣伝美術 岩瀬幹基
- 制作 石橋整
- 記録 友山敬太

椅子が四脚。

その椅子に座る三人の人影（「二」・「三」・「四」）
どこからかオクラホマミキサーが聞こえてくる。

三人、やおら立ち上がり、和やかな雰囲気で椅子の周りをぐるぐると回る。
突如、音楽が止まる。

譲り合ったりしながらそれぞれ悠然と椅子に座る三人。

一脚余っているので「二」は一人で二脚使ったりしている。

再度、オクラホマミキサー。

三人、再度立ち上がり、和やかな雰囲気で椅子の周りをぐるぐると回ると、椅子の一つが「二」に変身する。

突如、音楽が止まる。

真っ先に椅子に座る「二」

凍りつく「二」・「三」・「四」。

三者の間で、見苦しい争いが展開される、「二」が椅子取りゲームに敗れる。

三度、オクラホマミキサー。

「一」・「三」・「四」、手をつないで輪になって椅子の周りを回る。

「二」が入りこもうとするも、まったく入り込む余地がない。

音楽を残したまま、暗転。

1

舞台には「二」と「三」

「二」は床に転がって向こうを向いている。

三 なあ。

二 ……。

三 おい。

二 ……。

三 新人(にいと)。

二 ……。

三 なあ、新人(にいと)。

「二」反抗的な感じにガンを飛ばす。

三 にい…。

(遮って) 呼ぶな。何回言ったらわかんだよ。

二 ニートって呼ぶな。

三 でもなあ。

二 呼ぶな。

三 ……まだそんなこと言ってるのか。

二 ……。

三 しょうがないだろう、それがお前の名前なんだから。

二 迷惑だよ。

三 いいじゃないか、ニート。江戸で言えば浪人。平成で言えば自宅警備員。厚生労

働省によると若年無業者。

二 あのさ。前から聞こう聞こうと思ってたんだけどさ。

三 ん？

二 なんでそんな名前つけたんだよ。

三 ん、なんだ？ 嘉緒翠(かおす)とか頑駄無(がんだむ)とかのほう良かったか？

二 キラキラネームはもっとお断りだ。

三 お前が生まれた頃は、まだニートって言葉、なかったんだ。お父さんはだな、お前に常に新しいことにチャレンジするような、そんな人間になってほしいと思っ

な、新しい人と書いて

二 なんども聞いた。

三 なんども言ったな。

間。

三 じゃあどう呼んでほしいんだ。
二 なんでもいいよ。
三 じゃあニートくん。
二 俺は新聞の四コマ漫画か。
三 むしろ、ミートくんに語感は似ているなあ。
二 キン肉マンか。
三 がんばれニートくん。
二 やめろ、馬鹿にしてんのか。
三 何でもいいって言っただろう。
二 ニート以外ならなんでもいいって意味だよ。
三 そうか。じゃあ、うーん、おい、セバスチャン。
二 誰だ、それ。
三 ピレネー山脈に大きな白い犬となんでもかんでも半分こにしながら暮らす子供の
二 名前だ。
三 なんだよそれ。どっから湧いてきたんだそれ。
二 いわゆるひとつのインスピレーション。
三 適当だよ。
二 適当とインスピレーションは違う。
三 どうでもいいよ。
二 なあ、セバスチャン。
三 それで固定？
二 嫌か？
三 嫌だよ。
二 そうだな。いい年してセバスチャンつてのもこっ恥ずかしいよな。よし、わかつ
三 た。なあ、セバス。
二 あー、もうどうでもよくなってきた。
三 セバス、実はな、お父さんな、あのな、その・・・
二 なんだよ、いいから本題に入れよ。
三 お父さんな、こないだ、ネットサーフィンしてたらな
二 痛々しいから、その無理矢理若者に合わせようとするその感じ。
三 ん、なに？ どこが？
二 言わないから、いまどきネットサーフィンとか。
三 あ、ああ、そうなのか。まあ、そしたらな、気になる厚生労働省のブログを見
二 つけてな。
三 厚生労働省はブログやないだろ。
二 あ、ああ、そうなのか。まあ、なんだ、そのブログ・・・じゃなくて、あー、な
三 なんだ、あれは、ホームページつていうのか、そこにな書いてあったんだよ。
二 何が。
三 六十万人居るつて。

二 何が。
三 ニート。ニートは日本に六十万人いるんだってな。
二 ああ、そう。
三 すごいな六十万人だぞ。鳥取県の人口より多いんだぞ。どんたくパレード二十年
二 分だぞ。
三 だからなんだよ。
二 まあ、それはそれとして、ニートってのはな年齢三十五歳未満らしいんだ。

と、そこに突然十二時の鐘。

三 三十五歳の誕生日おめでとう！

二 ！
三 胸を張れ。もうお前はニートじゃない。ただの無職のおっさんだ。

祝福ムードをかきたてる軽快な音楽。

そこに「四」も踊りながら飛び込んでくる。

四 おめでとう

三 おめでとう

二 あれ、じいばあちゃん。

四 (「三」に) 新人、大きくなったねえ。

三 母さん、新人あらためセバスはこっち。

四 ああ、ああ、はいはい。セバスさん、セバスさん。(なんかその辺にあるものに)

三 なんだか随分(お任せ)○○になったねえ。

二 母さん、それは(お任せ)○○。

三 じいばあちゃん、いつ戻ってきたの。

四 今日はお前の誕生日だからな。特別に外出許可をもらってきたんだ。

二 はい、おめでとうございます。

「四」、お年玉袋的なものを渡す。

「二」、なんの躊躇もなくそれを受け取る。

二 ありがとう、じいばあちゃん！

三 迷いが無いな。いつもながら見事な貰いっぷりだ。

「二」、すぐさまお年玉袋を開封。

二 あれ？

三 どうした？

二 じいばあちゃん、何も入ってないよ。

二 四
そうかい？
もう、お茶目なんだから。入れといて。入れといて。封が閉じなくなるくらい入れといて。

「二」、「四」にお年玉袋を返しながら

二 二
いい？ 学問のすすめ大歓迎。たけくらべでも可。黄熱病お断り。ジャラ銭言語道断ね。
四 四
はいはい。

と、電気が暗くなりバースデーソング的なものが流れる。
ケーキを持った「一」がしずしずと入ってくる。
ケーキの上には35の火がついたキャンドル。

一 一
ハッピーバースデートウユー
三 三
ハッピーバースデートウユー
一 一
ハッピーバースデーディア
三 三
ハッピーバースデーディア
一 一
穀潰し
三 三
穀潰し
四 四
穀潰し
二 二
ん？
一 一
ハッピーバースデートウユー
三 三
ハッピーバースデートウユー
四 四
ハッピーバースデートウユー
三 三
どうぞ！

「二」、一気に火を吹き消す。
拍手。

全員笑顔のまま。

一 一
(明るく) おめでどう！
四 四
(明るく) ばかやろう！
三 三
(明るく) おめでどう！
二 二
ありがとう！
一 一
(明るく) 本当におめでどう！
四 四
(明るく) 本当にくソ野郎！
三 三
(明るく) 本当におめでどう！
一 一
(明るく) 本当におめでたい！
四 四
(明るく) 本当に殺したい！

三 (明るく) 本当におめでたい！
一 (ナイフを取り出して) おめでどう！
三 (包丁を取り出して) おめでどう！
四 (なんらかの刃物を取り出して) おめでどう！
二 あ、ありがとう。

「一」「二」「三」「四」、凶器を手に「ハッピーバースデー」を歌いながらケーキを持った「二」の周りをグルグル回る。

一 ハッピーバースデートウユー
三 ハッピーバースデートウユー
一# ハッピーバースデーディア
三# ハッピーバースデーディア
一* 無駄飯食い
三* 無駄飯食い
四* 無駄飯食い
一# ハッピーバースデートウユー
三# ハッピーバースデートウユー
四# ハッピーバースデートウユー

歌に合わせて、「三」、包丁を突き立てて、鬼気迫る感じで四つに切る。

「一」、皿をもってきて「二」「三」「四」に配る。

「一」「四」「三」の順にケーキを取っていく。

一 いえーい。
四 ありがたいありがたい。
三 ケーキケーキ！

「二」、出遅れて残りの一個が割り当てられる。
「二」、周りと自分のケーキを見比べて…

二 ちょっと待った。
一 何？
三 どうした？
四 なんだい？
二 食べるの待った。
一 なんで？
三 どうして？
四 なにゆえに？

小さいだろ。明らかに。
一 何が？
二 ケーキだよ、ケーキ。なんか、小さくないか、俺の。
三 そうか？
二 小さいだろ、明らかに。
四 そうかねえ。
二 じいばあちゃんのが一番でかいんだよ。
四 でもねえ、ケーキは年の数だけ食べないとねえ。
二 節分かよ！
一 目の錯覚じゃない？
二 そんなわけないだろ。
一 隣の芝生は青く見えるっていうしねえ。
二 じゃあ交換してくれ。お前の大きいのと、俺の小さいの。
三 小さいのはケーキじゃない。お前の心だ。
二 何うまいこと言ったみたいな顔してんだよ。
三 昔から言うだろう、残り物には福がある。
二 福なんていいよ、俺は量が欲しいんだよ。
三 うまいこというな。なるほど、これは父さん一本取られたな。
二 とつてない、一本取ってない。別にうまいこといったつもりじゃない。
三 じゃあ、技あり。
二 そういう意味でもなくて！
三 父さん、ちゃんと四つに切っただろ。
二 確かに四つには切れてるけどさ、ただ四つに切っただけで全然等分じゃないだろ。
三 やっぱり四つに切るより、八つに裂いた方がよかったか。
二 そういう問題じゃない。
一 もう、だいたいでもいいじゃない。
二 だいたいでもいいけどさ、その場合、大きいのは普通誰にいくもの？ これ、誰のお祝い？
一 それはもちろん
三 セバス、お前の卒ニート祝い
二 だろ。じゃあ、これ、誰のケーキ？
一 誰の？
三 誰のって…
四 そりゃあねえ…
二 その辺考えたら、自然に答え、出るんじゃない？
一 まあ、そうかな。
三 そうだな。
四 そうだねえ。
一 じゃあ、

三 三
四 三
まあ、
そういうことだねえ。

「一」「三」「四」、納得したように頷いたりして…

一 # いただきます！
三 # いただきます！
四 # いただきます！

「一」「三」「四」、飲み物のように一瞬でケーキを食べる。
呆然とする「二」。

二 二
一 # あ、あ、あー！

ごちそうさまでした。

ごちそうさまでした。

二 四 # ケーキ！ 俺のケーキ！ 食った。食いやがった。信じらんねえ。
三 # ごつつあんです。

その隙に「一」、「二」のケーキ皿を奪い「三」にパス。

「三」は「四」にパス。

一 四 三 一
はい。
はい。
はい。

「四」、ケーキを神棚的なところに供える。

「一」「三」「四」、拍手を打って…

一 三 四
誰のケーキって、
そりやもちろん
お山さまの分だねえ。

その神棚は「お山さま」と呼ばれているらしい。

二 俺のケーキ、なに勝手に供えてんだよ！
一 俺の？
三 勝手に？
四 供える？
一 いや、これ、もともとお山さまの分だし。
三 え、もしかして食べようとしてた？

四 罰があたるよ。お山さまのお供えに手を付けると。
二 え、なに、どういうこと。
一 どういうことって、そういうことよ。
二 おかしいだろ、俺のお祝いなのに、なんで俺の分のケーキがないんだよ。
三 小さいな。お前は心だけじゃなく、ケツの穴まで小さいな。
二 だからやめるよその、うまいこと言ったみたいな顔。
三 お前の卒ニートを祝ってるんだ。祝ってる対象は「お前」という存在じゃなくて、「お前が卒ニートした」という事実だ。
二 何言ってるのかわかんねえよ。
三 お前がニートであることで、どれだけ新子や父さんやじいばあちゃんが苦勞した
ことか。

「三」「四」「二」を囲んで…

三 どこいくんだよ。
四 逃げんなよ。
三 うわぐつ隠すぞ。
四 縦笛なめるぞ。
三 やーい、やーい、お前の兄ちゃんニート！ ニートの妹ニーコー！
四 やーい、やーい、お前の兄ちゃんニート！ ニートの妹ニーコー！
一 えーん。私が悪いんじゃないのにー

「一」「四」「三」を囲んで…

一 きみ、暑いのと寒いのはどっちが好き？
三 どちらかといえば寒いほうです。部長。
四 きみ、北と南はどっちが好き？
三 どちらかと言えば南です。専務。
一 そうか。
四 そうかそうか。
一 きみ、ペンギンは好きか？
三 嘘です。本当は北が大好きです。
四 そうか。
一 そうかそうか。
四 きみ、マスゲームは得意ツスムニカ？
三 とほほー

「一」「三」「四」を囲んで…

一 ふがふがふが。

三 父さんな、会社やめてやった。
二 ええっ!?
二 やめてやったって、そんな、どうしたんだよいきなり。
三 いやあ、話すとき長くなるんだが、端折って言うと「もう明日から来なくていい」
二 って言われてな。
二 なんだよそのドヤ顔。ただのリストラじゃんかよ!
三 人間ではそう呼ぶ人もいるな。
二 要するにクビになったんじゃないか。
三 クビになった? とんでもない。
二 クビじゃなきゃなんだよ。
三 クビになる前に、こっちから辞めてやったんだ。たとえるなら、ギロチンで首を
落とされる前に、自ら首を掻く切って…ってのはたとえとして適当じゃないな。大
学を放校になる前に中退…ってのもいまいちだな。懲戒免職になる前に依願退職つ
てのは、ものすごく人聞きが悪いな。違う、違うぞ、まあ要するに、あれだ。早期
退職。アーリーリタイヤメント。少しだけ早くやってきた第二の人生のスタートつ
てやっただ。
二 (「二」に) 慰謝料?
一 慰謝料。
二 慰謝料ってなんの。
一 精神的苦痛の。
二 え、まさか。
一 別れた。ってか捨ててやった。
二 え、なんで。
一 話すとき長くなるんだけど、端折って言うと「もうお前にはついていけない」って
二 言われてさ。
二 その気持ち良くわかる気がする。
一 で、頭きて、結婚指輪を顔面に叩きつけてやったらさ
二 そこまでするかな。
一 そしたらあいつ逆ギレして、その辺にあったゴルフクラブ持ち出してきて
二 デイ、DV!?
一 ブツブツいいながらバンカーショットの練習はじめてさ
二 はい?
一 「どこで間違ったんだ、俺の人生。ああ、まるで永遠に終わらないバンカーにつか
二 まってるみたいだ。チャーシューメン、チャーシューメン」とか言いだすもん
二 だから、私ますます頭にきてさ。
二 可哀そう。
一 でしょ?
二 旦那の方が。
一 なに?
二 なんでもない。

- 一 で、あてつけみたいにいっまでもしつこく素振りしてるもんだから、たいがいイ
 ラツときて、ゴルフクラブ取り上げようと思つて近づいたら…
- 二 ゴクリ。
- 一 あいついきなりクラブを上段に構えて、チャーシューメン！ チャーシューメ
 ーン！（メーンで頭を狙う動きを表現）つて。ここよ、ここ。（鼻先くらいを示して）
 このへんをビュンつかすめたのよ。「ああ、これはダメだ。殺らきや殺られる」つ
 て思つて、護身用のメリケンサックを
- 二 どうして持つてる？
- 一 両こぶしに装着して、蝶のように舞い、蜂のように刺す！
- 二 モハメド・アリ？
- 一 刺す！ 刺す！ 刺す刺す刺す！！
- 二 痛い、痛い、痛たたた！（ダウン）
- 三 （レフェリーのように割つて入つて）ダウン！
- 二 ノーノー、スリップ、スリップ。ダウンじゃないよ。
- 一 刺す！
- 二 ぐえつ。（無残にダウン）
- 三 ダウン、ノックアウト！
- 一 で、とりあえず慰謝料として、現金・預金と髪の毛全部むしつてきた。
- 二 か、髪の毛？
- 一 えへへ。ツラ屋に売った。
- 二 羅生門かよ。
- 一 で、そのお金でケーキ買って、今現在に至る。
- 二 今むしろケーキを食わなくて本当に良かったと思う自分がいる。
- 四 （なんかニコニコして）年金
- 二 知つてるよ。じいばあちゃんの年金支給日。
- 四 忘れちゃいけない支給日は
- 二 偶数月の十五日。
- 四 # 偶数月の十五日。
- 二 僕、納める人。
- 四 私、もらう人。
- 二 「二」と「四」の間に「一」と「三」が入つて…
- 二 （「一」に）納めて
- 二 「一」、「三」に渡す。
- 四 （「三」から）貰つて
- 二 納めて
- 四 使つて

二 納めた分すらもらえないのに納めて、
四 貰って
二 一銭ももらえないんじゃないかと思いつながら納めて
四 使って
二 納めなくても
四 貰って
二 払えなくても
四 使って
二 じいちゃんの分も
四 貰って
二 なんだかわからないけど
四 貰える
二 すごい！
四 摩訶不思議。
二 さすが百年安心な年金制度だね。
一 # (乾いた笑い) ははははは。ふう。
三 # (乾いた笑い) ははははは。ふう。
四 # (乾いた笑い) ははははは。ふう。

嫌な感じの間。

二 …あのさ。気づいたんだけどさ。
三 なんだ？
二 新子、お前、仕事、やめたよな。結婚した時に。
一 うん。
二 今は？
一 専業主婦：改め、家事手伝い？
二 おやじ、リストラされたんだよな。
三 だから早期退職だったて。
二 で、じいばあちゃんは当然働いてない
四 年金年金。
二 で、俺が今日で卒ニートして、かろうじて住所は不定じゃないけど、無職。
三 だな。
二 あのさ、もしかしなくても、この家って今、誰一人として働いてないんじゃない？
間。
三 そうだな。
一 なに当たり前のこと言ってるのよ。
四 年金年金。

二 え、え、え、大丈夫なの。
三 何が。

二 これからの生活とかなんとか。
一 大丈夫よ、お金あるもん。

三 あるもん。
四 あるねえ。

二 いや、当座のお金はあるだろうけど、じいばあちゃんの年金以外は増えてくわけ
三 じゃないし……

二 大丈夫じゃないのは、セバス、お前だけだ。
三 え？

三 お前に齧られ続けた父さんの脛もマツチ棒かと思紛うばかりに細くなつた。父さ
二 ん、自分で自分の面倒を見るので精いっぱいだ。良く聞け、セバス、今日から、お
一 前は、自立しろ。

二 えっ！
四 お小遣いもおしまい。
一 ええっ！

二 むしろ長男として、家族のみんなにお小遣いとかお年玉とかを渡すべきなんじゃ
一 ない？
二 えええええっ！

「二」、狼狽える。

二 なに、それ、どこの地方の風習？ 無理無理無理無理、いきなりそんなの無理だ
一 っつて。
二 ファイト。

三 根拠はないがお前ならやれる。
四 がんばれ。

二 え、なに、その適当な感じ。
三 そんなことより、もう寝るぞ。あんまり夜更かしばかりしていると……お山さまが
一 来て連れて行かれるぞ。

二 ガキじゃないんだから。今更そんなんで怖がるかよ。
三 そんなんって……お前、お山さまにそんな失礼な……知らんぞ。
二 夜更かししたくらいで神隠しにあうんだったら、今頃コンビニもファミレスも世
一 の中に存在してないだろ。

二 勇気あるね。
一 信じてないから、お山さまとか。

四 (神棚になんだか念仏を唱える) ああ、恐ろしい恐ろしい。
二 迷信だよ、迷信。
三 はたしてそうかな。
二 なんだよ。

三 いままで黙っていたが、実は、お前の母さんはな。
二 出ていったんだろ、オヤジに愛想つかして。
三 はたしてそうかな？

二 はたしてそうだよ。新子を産んですぐ、書置き残して出て行ったんだろ。
三 それは表向きの話だ。真実と事実は往々にして違う。

二 だからなんだよそのドヤ顔。
一 ふふふふふ。

二 なんだよ、その思わせぶりな顔。

三 ははははは。

二 え、なに。俺だけ知らないの。え、母ちゃんどうしたの。いなくなったのって、
お山さまとなんか関係あんの？ 連れて行かれたの！？

一 ふふふふふ。

三 ははははは。

二 なんだよ、なんなんだよ。そこまで言ったんなら教えるよ。

「一」「三」「ふふふふふ」「ははははは」と言いつつ別方向に消えていく。

二 おい、どこいくんだよ、おい！

一 ふふふふふ。(消える)

三 ははははは。(消える)

二 ああ、もう、なんだよ一体。…あ、じいばあちゃん。じいばあちゃんは知ってる
の？ 本当は母ちゃんどうしたの。ねえ。

「四」、神棚に手を合わせたまま微動だにせず。

二 (近くに寄っていった) じいばあちゃん？

四 (首がガクリと下がる) …。

二 ワー！！ またまた、冗談でしょ、じいばあちゃん(と、肩でも触る)

四 (そのまま変な形に崩折れる) …。

二 キャー！！

「二」、ちよつとした半狂乱。

「二」、それでも脈とかなんとか確かめてみたりする。

二 オヤジ！ 新子！ 大変だ！ 年金が、年金が！ 違う、じいばあちゃんが、じ
いばあちゃんがああああ！！

「一」「三」、それぞれ反対側から再登場。

一 ふふふふふ。

三 ははははは。
一 崇りじゃ。
三 お山さまの崇りじゃあ。
一 ふふふふふ。
三 ははははは。

「一」「三」、「四」に近付いて…

一 (脈をとって)む。
三 (瞳孔を確かめて)むむっ。
一 脈が無い。
三 瞳孔が開いている。
一 これはつまり
一 # (顔を見合わせて)生きてる。
三 # (顔を見合わせて)生きてる。
二 いや、死んでるだろ、それ！
一 一見死んでるようだけど
三 どっこい生きてる。
一 シヤツの中。
三 戦前生まれのど根性をみくびっちゃいかん。
一 多少心臓が止まるうが。
三 多少瞳孔が開こうが。
一 お山さまにお祈りすれば

「一」「三」、お山さまに柏手。

三 ほら、この通り。

「四」、彼岸から此岸に戻ってくる。

二 じいばあちゃん！(抱きつく)
四 (力強く)こら、新人！まーだ働きもせんでゴロゴロしよるとか。オイは悲しか
二 ぞ。たいがいにせんとぼてくりこかすぞ、きしやーん！
四 じいばあちゃん！
二 (殴る)きしやーん！
四 じいばあ…
二 (殴る)きしやーん！
四 じい…
二 (殴る)きしやーん！

「二」、その辺にすっ転がる。

四 山に行け。実りの季節のその前に、お山を詣でにでかけるのじゃ。

「四」、そのまま徐々に床に崩折れる。

「一」「三」「四」に近付いて…

一 (脈をとって)む。

三 (瞳孔を確かめて)むむっ。

一 脈OK！。

三 瞳孔だいたいOK！

どこからかオクラホマミキサーが聞こえてくる。

「一」「三」「四」、呆然とする「二」をよそにオクラホマミキサーで踊る。

二 お山詣で？

静かに暗転。

舞台には二段ピラミッドを組んでいる「二」「三」「四」。

(「二」と「三」の上に「四」が乗っている)

二 おやじ。

「三」、集中したような表情で答えない。

二 おやじってば。

三 (正面を見据えたまま) なんだ。

二 何これ。

三 何ってなんだ。

二 何の意味があるんだよ、この状態。

三 わからんのか。

二 わかんねえよ。

三 考えろ。

二 考えてもわかんねえから聞いてんだよ。

三 もっと考えろ。「何故？」と五回繰り返し返して自分に問いかける。①何故、お前は今、こうしてピラミッドの下段にいるのか？

二 オヤジに言われたからだよ。そこに四つん這いになれって。そしたら上にじいばあちゃんが乗ってきたからこうなったんだろ。

三 ②何故、お前は父さんに言われたからといって四つん這いになったのか？
え、何故って

三 お前には四つん這いにならないという判断もあったはずだ。でも、おまえはこうして四つん這いだ。何故だ。

二 知らないよ。なんだよ、じゃあ言うこと聞かずに刃向ったほうがよかったのかよ。それもまた人生。で、何故、父さんの言うことを聞いて四つん這いになったんだ。

三 ③何故、お前はなんとなく父さんの言うことを聞いたのか？
え、何故、お前はなんとなく理由なんかあるかよ。

三 よろしい。お前はなんとなくには理由なんかないと思ってるから、なんとなく父さんの言うことを聞いた。では、④何故お前は「なんとなく」には理由がないと思ってるのか？

二 何言ってるかわかんねえよ。

三 ではもう一度言おう。お前はなんとなくには理由なんかないと思ってるから、なんとなく父さんの言うことを聞いた。では、④何故お前は「なんとなく」には理由がないと思ってるのか？

二 禅問答かよ、

三　　もさん。

二　説破。

三　朝は4本足、昼は2本足、夜は3本足の動物はなくんだ

二　なぞなぞじゃないかよ。

三　答えは。

二　知ってるよ、人間だろ。

三　そのころは。

二　赤ん坊の時は四つん這いで、大きくなったら二本足で歩いて、年をとったら杖をつくからだろ。

三#　（不正解）ブブー！

四#　（不正解）ブブー！

二　は！？　なんで？

三　なんで赤ん坊の足が4本になるんだ。

二　だって四つん這いだから：

三　じゃあ赤ん坊のコレ（馬のように脚を上げ）は前脚か。仮にも人類だぞ。足じゃないぞ、腕だろう。謝れ。世界中の赤ん坊に土下座して謝れ。年寄りの杖も足じゃない。杖だ。というか老人が全員杖とかありえんだろ。見る、じいばあちゃんを。

「四」、杖どころかピラミッド上で見事なY字バランス。

三　仮に幼少期を朝、壮年期を昼、老年期を夜と比喩的に表現したとしても、見る、

この状態を。赤ん坊でもないのに四つん這いが二人と、年寄りなのに一本足。そも

そも、誰が赤ん坊とか年をとったらとか言った？　足が朝に4本、昼に2本、夜3

本の生き物はなんだって問題だぞ。

二　じゃあなんだよ、答えは。

問。

三　なんか、そういう生き物。

二　ええと、殺しますよ？

三　子供の頃に、山で見たことがある。

四　見た見た。

三　名前は知らんが、なんかそういう生き物。

二　いねえよ、そんな生き物。

三　いるいる。

四　見た見た。

三　なんかこうプヨプヨっとしつつかネクネつとしてそれでいてシャキーンとした感じの生き物だ。

二　ふざけんなよ、なんだよそれ。

三　ふざけてなどいない。お前は色々なことを知っているようで、知っていることし

知らんのだ。

「三」またもドヤ顔。

二 だからなんだよ、その「言っちゃった！」みたいな顔は。
三 まだ4つめの何故に答えてないぞ。

二 誤魔化すなよ。

三 どうしてお前は「なんとなく」には理由がないと思ってるんだ。

二 ああ、もうわかんねえよ。

三 わからない時はその前の何故に戻って考えろ。③何故、お前はなんとなく父さん
二 の言うことを聞いたのか？

二 だからわかんねえって。

三 ではもう一つ前まで戻ろう。②何故、お前は父さんに言われたからといって四つ
二 ん這いになったのか？

二 知らねえよ。

三 じゃあ、例えばだ、お前は通りすがりの壇蜜に「そこで四つん這いになって」っ
二 て言われたらなるのか。

二 なるよ。

三 なるな。というか、むしろ四つん這いになってほしいな。

二 ほしいね。

三 例えが悪かった。じゃあお前は通りすがりかつ見ず知らずの誰かに「そこで四つ
二 ん這いになって」って言われたら…

二 ならないよ、当たり前だろ。

三 何故？

二 何故って…だって知らない人だろ。意味もわからないし気持ち悪いし。

三 そこだ。

二 何が。

三 つまり、お前は父さんが言ったから、言うとおりにしたんだ。

二 ……

三 お前は父さんの言うことに表向き反抗しながら、その実素直に言うことを聞く。
二 実に素直で可愛くてバカだがいい奴だ。

二 バカだが余計。

三 父さんが言うんだから、きつと何か意味があるに違いない。そう思っているから、
二 なんだかわからないけどなんとなく父さんの言うことを聞いたんだ。つまりだな、
三 広い意味で言うとお前は父さんを愛している。

二 気持ち悪いよ、なんだよそれ。

三 ③、では何故お前は父さんを愛しているのか。それは父さんもお前を愛している
二 からだ。

二 勝手に進めるなよ。愛してないって。

三 ④、では何故父さんはお前を愛しているのか。

二 なんだよこの気持ち悪い空間は!!
三 それはお前が父さんを愛しているからだ。⑤、では何故お前は父さんを愛してい
二 るのか：って、なんかループしてないか？ ええと、つまり：
あー!! もう、耐えられん!!

「二」、結論を前にピラミッドを崩す。

「四」、ピラミッドの頂点から軽やかに降りる。

「三」、四つん這いから立ちあがって…

二 気持ち悪いんだよ、親子で愛すとか愛されるとか！

三 まあそう照れるな。

二 照れてない。

三 父さんはな、卒ニトしたお前に、人生や社会ってものを教えてやりたいんだ。
二 じゃあさっきの何を教えようとしてたんだよ。

「三」、それには答えず、「四」を背負い、そのままスクワットを始める。

二 答えろよ、てか今度はなんだよ。

三 スクワット。

二 そんなのみりやわかるよ。なんでじいばあちゃん背負ってスクワットやってんだ
よ。

三 お前に人生や社会を教えているんだ。

二 伝わらない。四つん這いからのピラミッド以上に伝わらない。

三 わからんか。

四 わからないかねえ。

三 (さらにスクワット) 伝われ！

四 (念じて) 伝われ！

二 (わからないという表情)

「三」、「四」を下に降ろして…

三 そうか。では身をもって理解するがいい！ とうつ。

「三」、「二」の背中に飛び乗る。

二 うおっ、重い重い重い！

三 父さんの想いの重さを身をもって知れい！

「四」、「三」の背中に飛び乗る。

四 とうつ。
二 うおっ！ 重たっ！ 無理無理無理、降りて、じいばあちゃん、降りて。
三 伝われ。
四 伝われ。
二 伝わった、伝わったから降りて！
三 本当か？
四 本当に？
三 言ってみろ、何が伝わった？
四 何かねえ？
二 人を、人を背負うとすごく重たい。
三 そのまんまかい！
四 ぼてくりこかすぞきさん！
二 だってそれ以外に何があるん：ダメ、もう、無理。

「二」、「三」、「四」の重みに耐えかね、潰れる。

三 おー！
四 伝わった！
二 え？ 何が。
三 何がって、お前。
四 よかったよかった。
二 わかんねえよ、何も伝わってないし。
三 今身をもって示したろ。
四 ねえ。

と、そこに「一」が戻ってくる。

一 ただいまー。

親亀子亀状態の「一」「二」「三」「四」

一 何やってんの？
二 社会の授業。
三 人生の授業。
四 授業っていうより修行。
三 どうして父さんの想いが伝わらないんだ。
二 教える側の問題なのか。
四 教わる側の問題なのか。どっちなんだ一体。
三 人の上で熱弁ふるってないで、いい加減どいてくれよ。
四 はいはい。

三 しょうがない奴だ。

「三」「四」、「二」の上からぞくぞく。

二 ふう。死ぬかと思った。

三 新子、お前にはわかるはずだ。父さんが何を伝えたいのか。（「二」に）そこに四
つん這いになれ！

三 嫌だよ、また上に乗るつもりなんだろ。
いいからなれ！

「四」、「二」の関節を極めて、を巧みに四つん這いにさせる。

二 わー！

三 （素早く「二」の横で四つん這いになって）それい！

四 （その上段に乗る）はいっ！ 完成く。

三 どうだ、新子。わかるか。

一 うーん？

三 そしてこうだ！！

「三」「四」、先ほどのように「二」の背中に飛び乗る。

一 なにそれ？

二 ほらみる、新子もわかんないじゃないか。

三 ヒント。（口パク）こー

四 （口パク）う

三 （口パク）れ

四 （口パク）い

三 （口パク）か

一 おうえいあ？

「三」「四」、今度はうっすら声を出す。

一 高齢化社会？

三 さすがだ新子！

四 天晴く！

二 言っただろ、今ほとんど言っただろ。

「三」、無理やりピラミッドを組ませて…

三 今は、お年寄り一人をたくさんの方で支えているが。

「四」、わかりやすく「二」「三」に片足づつをかけて立ち上がる。

つまり一人を二人でささえる。

しかし、もうすぐ父さんも（「四」を指して）こちらの仲間入りだ。

「三」「四」、すばやくピラミッドを解除。

「三」、無理やり三段ピラミッドに移行。

ぐあー！

つまり二人を一人でささえる。

要するにこうなる。お前の負担は一気に4倍だ。

無理無理無理無理無理いつ！

無駄無駄無駄無駄無駄あつ！

無理と言っても、無駄なこと。

1・2 || 0・5

2・1 || 2

2・0・5 || 4

大変残念だが、お前の負担が4倍になることは、何をどう計算しても変わらん。

まあ、実際のところ今現在なんにも負担してないんだから、何倍とか計算でき

ないんじゃない？

その通り！

（潰れる）ぶふう…。

新子！ あれを。

はいっ！

「一」、リボンで飾られた何かの包みを取り出す。

三 新子と父さんとじいばあちゃんから、三十五歳のお前へのバースデープレゼントだ。

「一」「三」「四」、バースデーソングを歌う。

歌いながら、じわじわと「二」を取り囲む。

一 ハッピーバースデートウユー

三 ハッピーバースデートウユー

一# ハッピーバースデーディア

三# ハッピーバースデーディア

一* リクルーター！

三* リクルーター！

四* リクルーター!

「二」、包みの中からネクタイを取り出す。

二 (ネクタイを目にして) いやああああつつつ!

一# ハッピーバースデートゥユー

三# ハッピーバースデートゥユー

四# ハッピーバースデートゥユー

三 かかれいっ!

「一」「三」「四」、嫌がる「二」を押しえつけ、パンツ一丁にひん剥く。

「二」、なんとか逃げ出して…

二 なんだよ、何すんだよ。一体俺をどうする気だよ。
一 どうするもこうするも。

何もそんなに難しいことじゃない。

四 スーツを着て、

三 ネクタイ締めて、

一 黒い靴下に

四 革靴穿いて、

三 カバンを持って

一 定期を持って

四 鼻毛を切って、

三 髭剃って、

一 モミアゲも、

四 胸毛も剃って

三 早起きして

一 朝飯もそこそこに

四 二時間コースの満員電車。

三 マスクして、

一 スマホしながら

四 音楽聞いて

三 仕事して

一 100円マックで昼飯食って

四 仕事して

三 残業して

一 酒飲んで

四 くだまいて

三 終電乗って、

一 ゲロ吐いて、

四 家に帰って寝る。
三 父さん、三十年以上もそうやって世の中の波に押し流されながら…頑張ってきたんだ。次はお前の番だ。しっかりやれい！
二 嫌だよ、無理だよ、できないよ。
三 問答無用！

「踊ろう楽しいポーレチケ」が流れる。

♪さあ 楽しいポーレチケ ポーレチケ ポーレチケ

踊りましょう ラン ラ ラ ラン

歌いましょう ラン ラ ラ ラン

ポーレチケのリズムにはずむよ ぼくたちは

大きな森 大きな木 大きな木 大きな木

手をつないで くるくる

まわりましよう くるくる

大きな木をかこんで 楽しくまわろうよ

どんぐりのみ どっさり どっさり どっさり

ひろいましよう どんぐりを

あつめましよう どんぐりを

どんぐりころころ かわいいどんぐりを

「二」、抵抗むなしくリクルートの姿にされる。

三 さあ、行って来い！

二 行って来いって、どこにだよ。無理だろ、この年でいまさら会社説明会とか。

三 三十五歳のハローワークだな。

二 おやじ、それ言いたいだけだろ。

三 てへぺろー。

二 だから、若ぶるなよ、痛々しいから。てへぺろとか、もう消費されるだけ消費されてどこかの海の藻屑だよ。

一 頑張って！

二 頑張るとか頑張らないとか、そういう問題じゃなくてさ。間違いなく変だっついてんだよ。

一 変？

二 変だろ。おかしいよ。初々しいリクルートスーツの群れの中に、こんなヨレヨレの無職中年が紛れ込んでたら。

一 大丈夫、大丈夫。

二 大丈夫じゃない、絶対大丈夫じゃない。

三 まあ、一度も働いてないって意味では、立派な新卒だな。

二 間が空きすぎだよ、卒業から。
三 まあ大学を4浪4留したと思えば。
二 思えるか。
一 海外に留学してたと思えば
二 してないし。
三 とある国に拉致されてたことにするか。
二 されてない。
一 難病と戦ってたってことにしたら。
二 残念なくらい健康だよ。
一 んー
三 んー
一 いっそ年齢を誤魔化して
二 ばれるよ。
三 性別も誤魔化して。
二 何のために。

「二、頑として動こうとしない。」

三 そろそろ働かないのにも飽きただろう。
二 全然。
一 毎日2ちゃんねるとニコニコ動画って空しくない？
二 楽しいよ。
一 しぶといわね。
三 しぶといな。
四 いってらっしゃい。
二 だからさあ、じいばあちゃん。
四 お山に行きなさい。
二 え？
四 行つてきなさい、お山に詣でに。
二 何言ってるんだよ。あんなどこ行つたって仕事なんかないだろ。
三 あんなどこって、お前一度も行ったことないだろ。
二 おやじだつてないだろ。
三 そうだった。
四 何にしても、まずは、お山さまにお祈りをしなきゃねえ。
三 そうだね。
二 そうだな。
一 嫌だつて。言ってるだろ、そもそも信じてないって。
二 じゃあ、代わりに行ってこようかねえ。
四 じいばあちゃん？
二 代わりにお山に行ってこようかねえ。

三 代わりにつて、年寄りの足でいけるようなところじゃ…。
 二 だから、なんで行ったこともないのにわかるんだよ。
 一 そうだった。
 三 じいばあちゃんが行くことないよ。
 三 そうだよ、母さん。
 四 でもねえ。えーと、えー（名前が思い出せない）新人じゃなくて、えー
 三 セバス。
 四 そうそう、セバス、セバス。
 二 それ、まだ続いてんのかよ。
 四 セバスが町にもお山にもいかないのなら、誰かがいかなきゃねえ。
 二 なんなんだよ、さっきから。山に行けていたり、町に行って働けて言った
 り。俺、なんかした？ どうして三十五になったからって、いきなり色々言われ始
 めなきゃなんないんだよ。
 四 仕方がないんだよ。それが決まりなんだから。
 二 決まり？
 三 この家の決まり、そして、この村の決まり…つまり、掟だ。
 二 村の掟って、江戸時代かよ。
 三 江戸じゃないぞ、平成だ。
 二 時代錯誤だよ。なんだよ、いまどき「掟」とか。
 三 ♪一つの家には口三つ。
 二 その歌。
 一 ♪一つの家には口三つ。
 二 なんだっけ、その歌。なんか聞いたことがある。
 一 ♪一つの家には口三つ。
 四 ♪実りの前に数えてみしやせ
 三 ♪口がいくつか数えてみしやせ
 一 ♪四つになったら減らさにやならぬ。
 四 ♪子供は小口。口半分。
 三 ♪大人になったら口一つ。
 一 ♪四つになったら減らさにやならぬ。
 三 ♪誰減らそ
 四 ♪減らすをお山に聞いてみよ
 三 ♪お山さまのいうとおり
 一 ♪あまった口はどこ行こう
 三 ♪お山に詣でに行かしゃんせ。
 四 ♪お山に詣でに行かしゃんせ。
 一 ♪お山に詣でに行かしゃんせ。 ♪

静かな、暗い間。

二 なんだよ。みんなして。

「一」「三」「四」、お山さまに二札二拍手一札

「三」、神棚にあった巻物のようなものを降ろす。

「三」、「二」にそれを手渡し…

三 開いてみる。

二 え、なんで。

三 いいから、開いてみる。

「二」、渋々ながらに巻物を広げる。

そこには「三一四二」と書かれている。

二 三、一、四。二？

三 違う。

四 そうじゃない。

二 え？

一 三。

三 引く

四。

一 三ひく四は？

間。

三 三ひく四は。

四 三ひく四は。

二 マイナス…一？

一 そう。

三 口が四つ。

四 一つ減らして三つ。

一 だから、誰かがいかなきやいけない。

三 だから、お前がいかなきやならない。

四 セバス、お前が行かないのなら、じいばあ…

(遮って) いいから。

三 母さんはいいから。

四 でもねえ。

三 さあ、選べ 町に降りるか。

一 山に行くか。

緊張感のある間

二 ……ここにいる。

三 ここに留まることを選ぶ、ってことか？

二 違うよ。選べない。選べないんだ。町に降りるのも、山に行くのも。どちらも選べない。だから、…なんとなく…なんとなく、ここにいるんだ。

遠くで地響き。

一 お山さまだ！

三 お山さまだ！

四 お山さまがお怒りじゃ！

二 え、何？

「一」「三」「四」、一目散に高台に逃げだす。

波音にも似た爆音が近付いてくる。

「二」、様子を見に、外に出る。

二 (声) うわあ！

ドザーン！と波をかぶる音が聞こえる。

一 兄貴！

三 セバス！

四 ニート！

静寂。

静かな波の音。

ややあつて、着衣のほとんどを流された「二」がずぶ濡れで入ってくる。

二 ……ニートって呼ぶな。

一 大丈夫？

二 死ぬかと思った。

三 どうだ、世間の荒波は。

二 もみくちゃにされた。

四 頑張っつて。

二 やっぱ無理だよ。

オクラホマミキサー。

椅子は3脚。

その周りを回る「一」「二」「三」「四」

音楽が止まり、まず「一」が脱落。
すぐさま音楽が再開。

「一」は椅子をひとつ片付け、去る。
椅子は2脚。

その周りを回る「二」「三」「四」。
と、「四」が何かに躓き、リタイア。

「二」、「四」の姿を気にしつつも、非情に回り続ける。
音楽が止まり、「四」が脱落。

三度、音楽が再開。

「四」は椅子を一つ片付け、去る。
椅子は1脚。

その周りを回る「二」「三」

音楽が止まり、「二」「三」がほぼ同時に椅子に座る。

「二」、「三」、お互いの尻を押し出し合いながら。

三 頼む、譲ってくれ。

二 そうしたいのはやまやまだけど、こつちにも生活があるんだよ。

三 家に帰れば寝たきりの婆さんが一人と、ニートの息子と出戻りの娘がいるんだ。

二 うちだって同じだよ。施設通いの婆さんと、リストラされたオヤジと、出戻りの妹がいるんだ。

などと話しながら、争いは熾烈を極める。

三 この年になると、もう仕事なんかかないんだ。

二 そんな年なら、もう仕事なんかしないで若者に譲ってくれよ。

三 面接に進めただけでも奇跡なんだ。お願いだ、頼む。なんでもする。

二 なんでもするなら、ゆずってくれよ。

三 訂正する。なんでもはしないが、譲ってくれ。

二 こつちだって色々事情があるんだよ。

三 年長者をいたわれ。

二 若者を思いやれ。

三 あの時バブルさえ崩壊しなけりや、今頃は。

二 知らないよ、俺らが子供の頃の話だろ。

三 あと、ITバブル崩壊とリーマンショックさえなければ、今頃は。

二 そりゃ誰だってそうだよ。

三 定年だってズルズル延長になって、今や65歳だぞ。こんだけ働いて働いてまだ

二 働かなきゃなんないんだぞ。

二 だったら働かなきゃいいだろ。

三 親は寝たきり、子供は無職。自分がやるしかないんだよ。

二 それはこつちも同じだよ。

三 年金だっていくら貰えるのか。不安だらけだ。
二 こっちはいくらかどころか、貰えるかすらわかんないんだよ。
三 なんてあの時NTT株なんか買っちゃったかなあ。
二 損したの？
三 三百万で買ったのが、今じゃ四千円。
二 大損じゃないか。
三 同情するなら譲ってくれ。
二 自業自得だろ。
三 ライブドア株でも大損した。
二 こっちは大損できるような元手すらないんだ。
三 それからJALと、エルピーダメモリと：
二 まだあんのかよ。
三 金の先物と、和牛商法にも騙された。
二 要するに投資に向いてないんじゃないの。
三 恥ずかしながらオレオレ詐欺に振り込んだこともある。
二 いったいどれだけ無駄に遣ってきたんだよ。
三 あと、まだ手元にシャープとソニーの株持つてる。
二 どうやったらそんなにピンポイントで大損できるのか聞きたいよ。
三 それが当たり前だったんだ。みんなそうしてた。時代の河の流れの中を自由自在
二 に泳いでいると思ってた。本当は、ただ流されてただけなのに。
二 隙あり！
三 おわあっ！

「二」、ついに「三」をずり落とし、最後の1席を確保する。
「三」、すこすこ退場。

二 (あたりを見回して) : やった、俺、やったよ！ できる子じゃん。これまでは、
二 やらなかつただけで、やればできる子じゃん！

しかし、そこに何故かまたオクラホマミキサーが聞こえてくる。

二 え？

不安な表情の「二」を残し、暗転。

一人椅子に座る「二」の姿。

たどたどしい手つきでキーボードを叩いている。

と、電話が鳴る。

二

お電話ありがとうございます。海山商事でございます。フグ田…でございますか？ フグ田…そのような者は弊社にはおりませんが。サザエさんの見過ぎじゃありませんか？ え、いえ、間違いなくうちは海山商事ですよ。係長。係長のフグ田。ああ、ああ、はいはい、福田ですね。少々お待ちください。

たどたどしく電話機の内線転送の操作。

二

ええと、電話の転送は…こうして、こう。

電話が切れた音。

二

あれ？ 俺、なんか間違えた？

電話、すぐさまかかってくる。

二

たまた大変失礼しました、海山商事でございます。福田でございますね。え、違う。福田じゃない。福田は呼びでない。こりやまた失礼しました。ええと、それではどういう御用件で。やせない。カーヴィーダンスをビデオ通りにやってるけどダンスがうまくなかっただけで全然やせない。ええと、そういった内容はカスタマーサービスセンターの方で…

と、そこにもう一本電話がかかってくる。

二

しよしよしよ、少々お待ちくださいませ。(電話をとって)お電話ありがとうございます。ございます、海山商事でございます。はい。ええと、福田にご用は…ありませんですね。ご用件は、はい、はい、固定電話から携帯電話の通話料が安くなるサービスですね。ええと、そういうのは総務になりますので少々、

と、更にもう一本電話。

二

うわ、はい、海山商事。ざるそば？ ざるそばを頼んだのにまだこない？ えーと、海山商事です。違います、みすず庵じゃない。うーみーやーまーしよーうーじーです。

さらに追加でもう一本

二 はい、海山商事。あー、お電話切れてしまいましたようで申し訳ありません。ちよつと本日、電話の調子がおかしいようでした、福田でございますね。少々お待ちくださいませ。

やはりたどたどしく電話機の内線転送の操作。

二 ええと、だから転送は…こうして、こう。で、こう。

電話が切れた音。

二 うっわ。

保留警告の音。

二 あ、忘れてた。カーヴィーダンスで痩せない。ええ、はい、なるほど、どちらにしてもそれはカスタマーサービスセンターで、ええ、私、ただの受付担当でした。上司？ 上司を出せと言われても。

保留警告の音。

二 ええ、ええ、はいはい、通話料が安くなるサービスの、総務で、ええ、はい、アポイントをということですね。

電話が鳴る。

二 はい、海山商事。え、朝には足が四本、昼には二本、夜には三本の動物はなんだ？あの、そういうのはヤフー知恵袋かこども電話相談室に。

保留警告の音。

二 ええ、上司を出せと言われても、上司からは上司をだすなと言われてまして。社長？ とんでもない。社長を出せといわれましても、そんないるんだかいらないんだかわかない社長は出せません。

保留警告の音。

二 ヒントだけでもいい…ってだから弊社ではなぞなぞの答えはわかりかねます。

保留警告の音。

二 もしもし大変お待たせしました総務に転送：がちよつとできかねますので、あの、お手数ですが、今から電話番号を申し上げますのでおかけ直しいただけますでしょうか。えーと、電話番号は、電話番号は。（番号を書いたメモが見つからない）あ、あの、お手元にメモの準備はよろしいでしょうか？ 本当によろしいでしょうか。言いますよ、言っちゃいますよ。後悔しませんね？ （結局見つからない）え、ええーと、少々お待ちくださいませ。

電話がかかってくる。

「二」、だんだん様子がおかしくなってくる。

二 申し訳ありません。また電話が切れて：え、そば？ ざるそば？ だからうちは蕎麦屋じゃない。ケラリーノサンドロビッチでもない。（切る）

また電話が鳴る。

二 （やけくそになって）はい、そばとうんちくの店、みず庵です。ざるそば今出ました。はあ？ 海山商事？あ、はい海山商事です。いえいえ、ふざけてるわけでは。先ほどから何度も申し訳ありません、あの、実は、ちよつと本日、福田の調子がおかしいようでした。ええ、転送はしてるんですが、切っちゃうようなんです。（小芝居）あれ、福田係長、ちよつとよかった。お電話です。福田係長！ 何、何するんですか、やめて、やめてください、福田か（電話を切る）

保留警告音の音。

二 うるせえ、デブ！ 踊ってダメなら断食でもしろ！ セールスだろ、しつこいんだよコンチクショー！ いたずら電話かクソが！

電話もジャンジャン鳴り、とても一人で捌けるような様子ではない。

「二」、真面目に全てをなんとかしようとして発狂。

二 （席から立ち上がって）ウピーー！！！！

オクラホマミキサー。

「一」「三」「四」が現れる。

三人、「二」の席が空くのをクルクルと回りながら待っている。

二 （無理矢理席に座って）プルプルプルプル。

オクラホマミキサ―、「二」にその席を立たせようとするかのように大きく。

二 (その場に立ち上がり、声にならない叫び) ! ! ! !

「一」「三」「四」、布のようなものを広げ、「二」の周りを回る。

音楽が止まる。

周りを囲んでいた三人、散り散りに消える。

椅子の上には「一」の姿。

「一」、軽やかな手つきでキーボードを叩く。

電話が鳴る。

一 お電話ありがとうございます、海山商事でございます。浜様、いつもお世話になっております。はい、福田でございますね。少々お待ちくださいませ。

軽やかに内線の転送を操作

一 福田係長、内線1番に、山川商事の浜様からお電話入ってます。

「一」、受話器を置いて、またカタカタとパソコン操作に戻る。

一 お電話ありがとうございます、海山商事でございます。はい、はい、ええ、はい。なるほど、弊社の「カーヴィーダンスでゲッソリダイエツト」の、はい、映像通りに踊っているのには、はい、はい、効果がみられないと。それは大変申し訳ありません。ええ、ええ、それはガツカリなさいますよね。お客様のお気持ちわかります。ええ、すぐに責任者におつなぎいたしますので、少々お待ちいただけますか？ はい、ありがとうございます。はい。

「一」、軽やかに内線転送。

一 もしもし、おつかれさまです、派遣の磯野です。お客様から「ゲッソリダイエツト」の件でご意見のお電話が入ってます。はい、ちゃんとやっているのに効果がないと、そういう内容です。よろしくお願いします。

「一」、受話器を置くが、パソコン操作にかかる間もなく電話が入る。

一 お電話ありがとうございます、海山商事でございます。はじめまして。いえいえ。はい、はい、なるほど、固定電話から携帯電話の通話料が安くなるサービスですね。あいにくとただ今担当者が席を外しておりますので、こちらから折り返しご連絡さしあげてもよろしいでしょうか。さようでございますか。日本テレサービスの中島さまですね。それではお電話ありがとうございました。お伝えいたします。はい、失礼

いたします。

と、更にもう一本電話。

一 お電話ありがとうございます。海山商事でございます。ざるそば？ 申し訳ありません、今出ましたので。はい、はい、急がせます、はい。(電話を切る)

「一」、軽やかに雑務をコンプリート。

「二」「三」「四」、出てくる。

二 頼んどいた資料できてる？

一 はい、こちらです。データは福田係長にもccで送っています。コピーは2部でよかったですか？

三 派遣さん、仕事早いね。

四 派遣さん、気が利くね。

二 それから、見積もりは？

一 はい、どうぞ。工数によって3パターンありますから、気を付けてくださいね。一応、一番可能性の高そうなやつに付箋貼っていますので。穴子係長、確認済みです。

三 派遣さん、仕事早いね。

四 派遣さん、気が利くね。

二 それから、新卒の採用計画は？

一 花沢課長が少し直したいところがあるからということ、明日の昼イチに変更になっています。資料はファイルサーバに置いてあります。パスワードはメールで送っています。

三 派遣さん、仕事早いね。

四 派遣さん、気が利くね。

二 あと、例の提案書、出来てるよね？

一 ちょっと硬めのレイアウトと、ビジュアル中心のレイアウト、2種類でパワーが作っていますので、プレゼンの雰囲気でどっちを使うか決めてください。論理構成は変えてませんから、すんなり行けると思っています。伊佐坂部長には昨日の午後にはお渡ししています。あと、プリントアウトを製本したのを8部ですね。

三 派遣さん、仕事早すぎだね。

四 派遣さん、気が利きすぎだね。

二 派遣さん、今日一緒にランチでもどう？

一 あー、すみません、是非一緒に一緒にしたいんですけど、今日はたまたまお弁当なんですよー。

三 派遣さん、今晚、一杯どう？

一 すみません、是非一緒にしたいんですけど、今日はちょっと祖母の介護があるので帰らなきゃなんですよー。

四 派遣さんハアハア、派遣さんハアハア。

一 (立ち上がる勢いで「四」にアッパーカット) 失礼しまーす

「二」「三」「四」スローモーションで消えていく。

一 こうやって、毎日派遣さん派遣さんと呼ばれていると、自分がなんだかわからなくなる時がある。要するに私のやっている仕事は、かけがえのないものでも、代わりのきかないものでもなんでもなくて、私がいなければ、他の派遣さんがやってきて、何事もなかったかのように続いていく程度のものなのだろう。頑張って頑張って頑張っても、自分がどんどん擦り減っていくだけで、擦り減って擦り減って、もう動けなくなっただとしても、まるで部品を交換するように、誰かと交代させられるだけなんだろう。：先なんて見えない。でも、それ以上深くは考えない。考えたってわからないし、そんなもんだと思っっているから、別になんとも思わない。考えすぎると、兄貴みたいになる。兄貴は頭が良すぎる。良すぎるから、世の中がよく見える。見えるから、この椅子取りゲームには椅子が足りないことが分かっている。だから、未来に絶望する。バッドエンドしか待っていない、そんなゲームを続けることの意味の無さに気付いてしまえば、選べなくなる。どの選択肢を選んでも、どんなルートを通って進んでも、結果は同じだとしたら、そこで立ち止まり進まないことは、もしかしたら最良の選択なのかもしれない。

3つの椅子には4人は座れない。3人分の食料では4人は生きられない。だから、誰かがこのゲームからおりなきやいけない。だから、誰かが山にいかなきやならない。

「一」去る。

夕暮れの時の光。

「二」「四」を背負って出てくる。

二 じいばあちゃん。

二 …。

二 じいばあちゃん？ …寝てるの？

二 起きてるよ。

二 着いたよ。

二 ああ、そうそう、お山さまの入り口はこんなだったねえ。

二 入り口？ …ただ登ってきてまだ入り口？

二 そうだよ。お山さまはまだまだ登った奥のほうにあるんだ。

二 じいばあちゃん、来たことあるの。

二 昔ねえ。

二 ふーん。

二 昔ね。お前のおじいちゃんを背負ってきたんだよ。

二 じいばあちゃんが？

二 そうそう。あれはもうどれくらい前になるかねえ。(道案内) ええと、たしか次は

二 四
その大きな岩の二股を右だねえ。
まだ着かないの？
まだまだだねえ。

と、カラスが鳴く声。

二 四 二
（息が切れた）ふうふう。じいばあちゃん、ちよつと休んでいかない？
（顔を赤らめて）もう、いやだよ、この子は！
何言ってるんだよ、そういう意味じゃないよ！
冗談、冗談。

「二」、「四」をおぶったまま腰をおろす。

二 四 二 四 二 四 二
ふう。しかし、本当に石ころだらけのなんもない山だよね。
そうだねえ。賽の河原みたいだねえ。
賽の河原みたいって、じいばあちゃん、見たことないだろ。
あるよ。もうこの年になると、河原くらいまではなんどか往復してるからねえ。
笑えないよ、その冗談。
ただ、ここは川がないからねえ。石を積んでる子供もいないし、鬼もいないし。
こわいよ、そんなのいたら。

カラスの鳴き声が集まってくる。

二 四 二 四 二 四 二 四
急がないと、陽が落ちてしまうよ。
大丈夫だよ、明かり、持ってきてるから。…ってなんかこの山やけにカラスが多
くない？
そうだねえ。
なんでこんなに集まってくるんだろ。巣でもあるのかな。でも、こんな餌もなさ
そうなところに巣なんて作るもんかな？
待ってるんだろうねえ。
待ってる？ 何を。
ほら、出発出発。
よっこらしょーと。

「二」、腰を上げる。

だんだんと日が暮れてくる。

二 四 二
ふうふう。じいばあちゃん、次は？
次は、その大きな平たい岩のところを左だねえ。
左って、道、ないじゃん。

二 四

ここから先は道なき道。

お山さまって、そんな辺鄙なところにあるの？ お参りする人がいるんだったら、道くらい作ればいいのに。

二 四

このあたりから先は石が浮いてるから、気を付けてねえ。

二 四

(早速滑った) うおっ。危ない危ない。

二 四

ありがとうねえ。

二 四

ん、何が？

二 四

連れてきてくれて、ありがとうねえ。

二 四

いいよ、別に。本当なら、俺一人で来なきやいけなかったんだし。

二 四

ありがたい、ありがたい(念仏) なまんだぶなまんだぶ。

二 四

耳元で念仏となえないでよ。

二 四

はいはい。次は、目をつぶって。

二 四

え？

二 四

目をつぶる。

二 四

なんで。

二 四

そういう決まり。

二 四

変なの。

二 四

つぶったら、そのまま右に三回、左に四回回って。

二 四

(いわれるままに) 右に三回、左に四回。

二 四

それからまた右に四回、左に三回。

二 四

(いわれるままに) 右に四回、左に三回。

二 四

そうそう。

二 四

じいばあちゃん。

二 四

どうしたね？

二 四

目が回った。

二 四

それじゃあ目を開けて。

二 四

目の前がグルグル回ってるよ。

二 四

そのまままっすぐ進んで。

二 四

「二」、目が回っていてフラフラすすむ。

二 四

まっすぐって、こんな感じ？

二 四

そうそう。

二 四

カラスの鳴き声が、後をついてくる。

二 四

うるさいな、カラス。

二 四

「二」、振り返ると、空にカラスの大群。

二 四 二 四

とか、登山で使うようなそういうの。
ええと、入れ歯とポリグリップくらいしかないねえ。滑り止めにも使うかい？
いらぬよ。余計危ないよ。
ああ、違ったタフグリップだった。
どっちでも一緒だよ！

今頃、石が跳ね返る音。

二 四 二 四 二 四 二 四 二 四 二 四

今頃だよ、今頃聞こえたよ。やばいって、やばすぎるくらい深いって！
頑張れ。
無理だって、こんなの。しかもじいばあちゃんおぶったままでとか。
そりゃあ無理だよ。
え？
誰かをおぶったままじゃ渡れない。石は浮いてるし、足元は崩れやすいし。ここ
は一人ずつでバラバラに渡るんだよ。
帰ろうよ。もうこのへんでいいんじゃない？ この辺からパンパンッてお参りし
てさ。

お山さままではもう少しだよ。
いや、でも、だって。

「四」、「二」の背からすばやく降りる。
有無を言わず、「二」の背中を押し稜線の上に立たせる。

四 二

ひいひい。
ほら、後ろ向かない。下も向かない。前をみて。もつと遠くを見て。そうそう、
ずっと遠くを見て。はい、右足、左足、右足、左足。ゆっくりでいいから一歩一歩
前に進む。

じいばあちゃん、怖いよおお。
ほら後ろ向かない。

(危うく落ちそうになった) うわああああ！

四 二 四 二 四 二

ほら、よそ見せずに、前向いて。ほら、下向かない。
そんなこと言ったって怖いんだよおお。
近くをみれば、色んなことが気になる。あそこに小石があるとか、あそこが凹ん
でるとか。するとだんだん色んなことを不安に思うようになる。もし躓いたら、足
を滑らせたなら、あそこが崩れたら。まだ起こつてもいけないことを不安に思い、そん
なことに気を取られていると、ますますまっすぐ進めなくなる。だから、下を見な
い。遠くをみて、一歩一歩。ほら、大丈夫大丈夫。

四 二

遠くっていったって、どこを見ればいいんだよ。見えないよ、なんにも。
それは、じいばあちゃんにもわからない。お前の信じる遠くを見るしかないんだ
よ。新人。

二 ニートって呼ぶな。
四 いい名前じゃないか。
二 怖い、落ちる、死ぬ。

「四」、「二」の後ろにぴったりとついて歩いていく。

四 大丈夫大丈夫。なまんだぶなまんだぶ。
二 だから念仏唱えるのやめろって！

四 冗談冗談。
二 洒落になんないって、これ。マジで。

陽はますます落ち、夕闇前の薄暮。

逆光のシルエットのように二人の姿を映し出す。

「四」、「二」の背中にそっと手を伸ばす。

「四」、いつでも「二」を突き落とせる状態。

静かな、長い間。

「四」、静かにその手を下ろす。

二 ヤバい、怖い、ヤバい、怖い。

「二」、恐怖のあまり四つん這いになって進んでいく。

日没。

「二」、ヘッドランプをつけて進む。

その頼りない光がフラフラと闇の中を進んでいく。

四 ほら、もう少しだよ。

二 本当だ、見えた。岩が…真っ白だ。

四 きれいだねえ。雪山みたいだねえ。

二 あれがお山さま？

四 そうだよ。ほら、もう少し、もう少し。

「二」「四」、無事に剣の刃渡りを渡り切る。

二 着いた。やった、着いた。

四 着いた着いた。

「二」、四つん這いから立ち上がった…

二 なんだよ、渡ってみればたいしたことないじゃん。楽勝楽勝。そりやそうだよね。
人がお参りにくるような場所なんだから。危なそうに見えるだけで、落ちたら死ぬ

とか、そんなんあるわけないよね。

気がつけば、星明かりを遮るほどのカラスの大群。
カラス、一斉に鳴きはじめる。

二 何！？ 何！？

うっすらとあたりが照らし出されると、そこには真っ白な人骨の山。
その真ん中には、注連縄で飾られた真っ白な大岩。
その岩には大きく横書きに「三一四」^二と浮かし彫りがされている。

二 これが、お山さま…？

「二」、腰を抜かし、「四」にすがって立つ。

二 四 ありがとうね。もう、ここらでいいよ。…お前は、もう戻んなさい。
え、戻るって、一人で？ じいばあちゃんは？

「四」、にっこり笑うだけで答えない。

四 二 四 二 四 二 四
朝は4本足、昼は2本足、夜は3本足の動物はなくんだ
こんな時に何言ってるんだよ。
なくんだ。
わからないよ。
もうわかったはずだけどねえ。
え？

答えは、お山さま詣での人。はじめは用心深く這って進んで4本足。着いたと思
って、油断してこれまでの怖さを忘れて立って2本足。腰を抜かして、何かにつか
まり立ちで3本足。

「四」、あのわらべうたを口ずさみながら、大岩の方へゆっくりと歩き出す。

四

♪一つの家には口三つ。
♪実りの前に数えてみしやせ
♪口がいくつか数えてみしやせ
♪四つになったら減らさにやならぬ。
♪子供は小口。口半分。
♪大人になったら口一つ。
♪四つになったら減らさにやならぬ。
♪誰減らそ

♪減らすをお山に聞いてみよ
♪お山さまのいうとおり
♪あまった口はどこ行こう
♪お山に詣でに行かしやんせ。
♪お山に詣でに行かしやんせ。
♪お山に詣でに行かしやんせ。

「四」大岩の前に腰を下ろす。

四 二

じいばあちゃん！
じいばあちゃんも、若い頃はいつ死んでもいいと思ってた。長生きなんてするよりも、太く短く、そう思ってた。でもね、残り少なくなってはじめて…命が惜しいと思うんだ。これまでにやってきたことより、やれなかったこと、もうできないこと、そんなことばかりが頭の中をグルグルグルグル回ってね。死にたくない。覚悟を決めて、ここまで来てもやっぱりまだ死にたくないねえ。

じいばあちゃん！

冗談冗談。さあ、戻んなさい。

…。

新人、お前にはまだ時間がある。これまでよりも、これからの時間がある。これまでやれなかったことを、これからやればいいだけさ。

四 二 四 二

「二」、その言葉に何も返せず、ただその場に立ちつくす。

四

頑張れ。

大音量で「踊ろう楽しいポーレチケ」の4番がリフレインで流れる。

♪雪のいるギンギララ ギンギララ ギンギララ

♪とおい山 赤いよ 森の木も赤いよ

♪みんなのうたう声も すいこまれてゆくよ

♪みんなのうたう声も すいこまれてゆくよ

走り去る「二」のヘッドランプの明かり。

暗転。

そこには「四」を背負った「二」の姿。

二 ……ただいま。

音楽。

どこからか、「二」と「三」も姿を現す。

- 二 三ひく四はマイナス一。
一 この世界をざっくりと算数であらわすと、そんな感じだ。
三 3つの椅子には4人は座れない。
四 3人分の食料では4人は生きられない。
一 6500万人の女と
二 6300万人の男。
三 合わせて1億2800万人の人間。
四 3000万人の高齢者と、
一 2300万人の未成年。
二 2200万人の若年世代と
三 5300万人の熟年世代。
四 あわせて7500万人の現役世代。
一 80万人の若年無業者。
二 60万人のニート
三 300万人の失業者
四 530万人の要介護者。
一 年に130万人が結婚し、
二 50万人が別れる。
三 100万人が生まれ、
四 120万人が死んでいく。
一 140万人が一人で子供を育て、
二 5万人が、子供を預ける場所すらなく彷徨い、
三 3万人が自ら命を絶ち、
四 10万人が、何処へかと姿を消し、
一 1600万人が一人で暮らし。
二 2400万人が生活保護で暮らし、
三 2万人が天災で一度に命を落とし、
四 2万人が誰に看取られることもなく孤独に死を迎える。
一 350万人が体の障がい
二 1000万人が心の病を抱え、

三 65万人ががんを発症し、
四 35万人ががんで死んでいく。
一 1億2800万人の人間。
二 増え続けてきた、1億2800万人の人間。
三 100万人が生まれ、
四 120万人が死んでいく。
一 100万引く120万はマイナス20万。
二 答えは算数のレベルで明白だ。
三 人は減り、
四 高齢者は溢れ、
一 明日は今日のようにでなくなり、
二 明後日は、さらに今日のようにでなくなる。
三 変わる風景。
四 変わる意識。
一 変わる社会。
二 変わる未来。
三 そんな未来を恐れるのなら。
四 成行き未来を恐れるのならば
一 流されず、泳ぎ抜け。
二 成行きを覆し、
三 算数の答えを変えろ。
四 まだ、時間はあるんだから。

「四」、静かに山の方へ去っていく。

一 予測された未来という引力。
二 目に見える範囲の、なりゆきの未来。
三 なりゆきの未来に絶望せず、その先に希望を託せ。…まだ、時間はあるんだから。

「三」、静かに山の方へ去っていく。

一 いつか来る波。
二 それに怯えて高台で暮らすのは、いずれくる老後を恐れ、今を生きないことによく似ている。
一 未来など、どうせわからない。そう割り切れば、どうにかなる。
二 …まだ、時間はあるんだから。

石板の文字がひとりでに「三・四」に変化。

「二」、静かに山の方へ去っていく。

一人残される「一」。

遠くから、水音。
やがて、怒涛のような波の音が近づいてくる。
「二」「三」「四」、山の高台から顔を出し…

二 波だ。
三 波だ。
四 波が来た。
二 逃げろ！
三 動くな！
四 立ち向かえ！
二 波だ。
三 波だ。
四 波が来た。
二 涙のような波が来た。
三 日々のささやかな営みも、
四 日々のささやかな嗜みも、
二 どこにでもあるような月並みな街並みも
三 軒並み流す波がきた。
四 よる年波
二 乱れる足並み
三 死んで花実が咲くものか
四 駆けろ。
二 賭けろ。
三 駆け抜けろ。
四 下を向き、歯を食いしばり、前など見ずに、ただ駆けろ。
二 駆けろ、
三 駆けろ、
四 駆け抜けろ。
二 向かい来る荒波に、打ち勝つ手段はただ一つ。
三 背を向けず、ただ、全力で立ち向かい
四 正面から、波頭を乗り越えることだけだ。

「一」、駆けだす。

波音、いよいよ大きく。

激しい破壊音。

石板に波が直撃し、大きな水飛沫が上がる。

静かな間。

と、山の影から「四」を背負った「三」の姿が見える。

それをさらに背負った「二」が、それをさらに背負った「一」が姿を現す。
音楽。

石板の文字、ギシギシと大きく軋みながら三×四Ⅱに変わる。

一　これくらい、なんてこともない。もともと、そんなもんだと思えば。生きることなんて、はじめから損なことばかりだと思えば：十二分だ。生きてるだけで：十二分に楽しい。

歯を食いしばり、三人を背負う「一」の姿。

その目に、遠い未来への意思を確かに湛えて。

やがて、暗転

(幕)

脚本執筆に際し、下記の文献を参考にしました。

小説「檜山節考」 深沢七郎著（新潮文庫）

対談集「どうやらオレたち、いずれ死ぬっつーじゃないですか」 みうらじゅん／リリ

ー・フランキー（扶桑社）